

東大病院で病理解剖にご協力頂いた患者さんのご遺族の方へ

「病理解剖検体を用いた胃癌の病態解析」研究への協力をお願い

東京大学医学部附属病院病理部では、当院で治療を受けたものの、残念ながら亡くなられた患者さんで、ご遺族の御承諾を頂いた方を対象に、死因や病態を明らかにして今後の医療に生かすため、病理解剖を行っております。病理解剖では、全身の臓器をご遺体から取り出して詳細に検索することで、主な病変のあった臓器だけでなく、全身の諸臓器も含めて病態を明らかにし、通常の医療だけでは得られない様々な情報を知ることができます。これらの情報を元に研究を行うことは、各種の疾病に対する知見を深める上で重要です。

そのため、当院病理部、及び東京大学大学院医学系研究科人体病理学教室では、胃癌で亡くなられ病理解剖を受けられた患者さんの臨床データ及び病理解剖結果、解剖で採取された検体から得られる分子生物学的情報を用いて研究を行っております。具体的には、生前の臨床情報〔問診や診察所見、疾患名、処置・手術・投薬等の治療内容、放射線画像所見(CT, MRI, 核医学検査)、血液検査・生理検査・尿検査・便検査等の各種検査データ、各種臨床評価指標〕、及び病理解剖で採取されたホルマリン固定臓器、臓器写真、パラフィン包埋ブロック及び組織標本、臓器の凍結保存検体を用いて、胃癌組織型や腫瘍分布、分子生物学的情報、各種臨床情報などの相関関係について研究しています。

この研究は過去の診療記録、及び通常の病理解剖による診断後の標本を対象として行われますので、患者さんご本人の診療内容には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。解析にあたっては、個人情報には匿名化させていただき、その保護には十分に配慮いたします。学会や論文で結果を発表する際には、個人の特長が可能な情報は全て削除されます。

この研究に関して不明な点がある場合、或いはデータの利用に同意されない場合には、以下にご連絡頂きたいと存じます。なお、本研究は当院の倫理委員会の承認を得ております。また、データや標本の研究での使用をお断りになった場合でも、将来にわたってご遺族の方が当院における診療上の不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

2019年2月8日

連絡先：東京大学医学部附属病院病理部 牛久哲男（研究責任者）

東京都文京区本郷7-3-1

Tel: 03-5841-3343

Fax: 03-3815-8379